

平成19年度 市民環境部 改革マニフェスト 自己検証シート

1) 目標と成果

マニフェスト	項目名 (担当部署)	集中改革プラン 項目	取り組み内容	区分	成果指標			活動指標			活動指標			自己評価	
					H17	H18	H19	H17	H18	H19	H17	H18	H19		
1-	市税等の財源確保 (税務課)	4-1 4-3	市税等の口座振替率について、 1.0ポイント向上を目標とします。	指標名	市税等口座振替率			当該年度の市税等口座振替における完納率						B	
				指標の算式等											
				目標(A)		45.0%	47.1%			97.5%					
				実績(B)	40.8%	46.1%	47.33%	97.3%	97.4%	97.1%					
				(A)と(B)の比較		1.1%	0.23%			0.4%					
1-	市税等の財源確保 (税務課)	4-1 4-3	市税の収納率について、0.9ポイントの向上を目標とします。 国民健康保険税の収納率について、1.2ポイントの向上を目標とします。 介護保険料の収納率について、0.2ポイントの向上を目標とします。	指標名	市税の収納率			財産調査件数			差押え件数			D	
				指標の算式等											
				目標(A)		93.1%	91.8%			1,500件			15件		
				実績(B)	92.5%	90.9%	90.1%		10,518件	1,761件	18件	14件	11件		
				(A)と(B)の比較		2.2%	1.7%			261件			4件		
				指標名	国民健康保険税の収納率			以下同上			以下同上			D	
				指標の算式等											
				目標(A)		90.5%	88.8%								
				実績(B)	88.5%	87.6%	87.8%								
				(A)と(B)の比較		2.9%	1.0%								
				指標名	介護保険料の収納率			以下同上			以下同上			D	
				指標の算式等											
				目標(A)		99.1%	99.0%								
実績(B)	98.9%	98.8%	98.9%												
(A)と(B)の比較		0.3%	0.1%												
2	地球温暖化対策の 取組 (環境課)	23-3	平成18年度に策定した「佐渡市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市の事務・事業に伴う温室効果ガスの排出削減に取り組み、平成17年度比で3%の削減を目標とします。	指標名	温室効果ガス総排出量			市関連施設の電気使用量						C	
				指標の算式等											
				目標(A)		35,352 トン CO2	34,991 トン CO2								
				実績(B)	36,074 トン CO2	35,439 トン CO2	35,000 トン CO2	29,774 MWh	27,323 MWh	26,842 MWh					
(A)と(B)の比較	(基準年)	87 トン CO2	9 トン CO2		(基準年)	-	-								
3	グリーン購入の推進 (環境課)	23-4	再生紙や再生品など、環境に負荷の少ない「環境にやさしい製品・サービス」の調達を進めます。	指標名	グリーン購入調達率(平均値)			紙類(コピー用紙)におけるグリーン購入調達総重量						C	
				指標の算式等											
				目標(A)			90.0%								
				実績(B)	83.0%	81.0%	81.0%	68,237 kg	57,016 kg	54,165 kg					
(A)と(B)の比較	(基準年)	2%	9.0%		(基準年)	11,221 kg	14,072 kg								
4	トキ野生復帰への 取り組み (環境課)	23-5	餌場面積拡大のため、休耕田を対象とした助成事業を新設するほか、トキの野生復帰をサポートする佐渡トキファンクラブ会員の増加を目指します。	指標名	餌場の整備済総面積			トキピオトーブ整備事業申請件数						B	
				指標の算式等											
				目標(A)		10.7 ha	15.6 ha			20 件					
				実績(B)	4.1 ha	9.0 ha	16.9 ha			16 件					
				(A)と(B)の比較		1.7 ha	1.3 ha			4 件					
		指標名	佐渡トキファンクラブ登録会員数			メルマガ発行回数			プレゼント企画回数						B
		指標の算式等													
		目標(A)		2000 人	2000 人			12 回			12 回				
		実績(B)	0 人	324 人	2200 人			12 回			12 回				
		(A)と(B)の比較		1,676 人	200 人			0			0				

平成19年度 市民環境部 改革マニフェスト 自己検証シート

5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	平成18年度の処理実績から、1,205トンの減量を目指します。	指標名	ごみ総排出量						C
				指標の算式等							
				目標(A)		24,387 トン	24,234 トン				
				実績(B)	24,875 トン	25,306 トン	19,315 トン				
				(A)と(B)の比較		919 トン	4,919 トン				
5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	古紙の集団回収及び資源ごみの分別を促進し、リサイクル率の向上を図ります。	指標名	リサイクル率			集団古紙回収量			C
				指標の算式等							
				目標(A)			17.0%			1,372 トン	
				実績(B)		15.6%	17.0%		1,295 トン	1,319 トン	
				(A)と(B)の比較			0.0%			53 トン	
5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	スーパー等の自主的な取り組みにより行なわれてきた白色トレイの回収について、回収店の拡大を図ります。	指標名	白色トレイ回収店数						C
				指標の算式等							
				目標(A)					20 店舗	23 店舗	
				実績(B)				15 店舗	21 店舗	24 店舗	
				(A)と(B)の比較					1 店舗	1 店舗	
5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	4月1日より、「レジ袋ゼロ運動」を実施し、ごみの減量化を図ります。	指標名	マイバック持参率			レジ袋ゼロ運動加盟店数			C
				指標の算式等							
				目標(A)			80.0%			195 店舗	
				実績(B)			80.0%			195 店舗	
				(A)と(B)の比較			0.0%			0	
5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	昨年に引き続き使用済み乾電池について、22トンの分別回収を目指します。	指標名	使用済み乾電池の分別回収量			廃乾電池取扱店数			C
				指標の算式等							
				目標(A)		14.0 トン	22.0 トン		96 店舗	97 店舗	
				実績(B)		20.8 トン	12.6 トン		96 店舗	97 店舗	
				(A)と(B)の比較		6.8 トン	9.4 トン		0	0	
5-	ごみの減量化、再資源化の推進 (廃棄物対策課)	23-6	不法に放置されている自動車 が、1,215台確認されていますが、 バスなど100台の撤去を目指し ます。	指標名	確認済みの放置自動車台数			放置自動車の撤去台数			A
				指標の算式等							
				目標(A)					100 台	100 台	
				実績(B)		1215 台	837 台		55 台	435 台	
				(A)と(B)の比較					45 台	335 台	

2) 取組過程と取組み後の対応

区分	チェック項目	自己評価	自己評価について(所見)
取組過程	取り組みの段階において市民への説明やPRを十分に行ったか。また市民からの質問に対応する方法や体制が確立されていたか。	C	市報による周知や関係団体等への説明を実施したが、今後も継続的な活動が必要と考える。
	目標達成に向けた部局内の体制は効果に対し相応な対応であり、かつ万全であったか。(過剰な活動や予算、人員による取組みがなかったか。)	C	本庁・支所・各施設等の取り組みレベルに格差があり、今後レベルアップする必要がある。
	部局長のリーダーシップのもと、目標達成に向けた所管職員の意識啓蒙や部局内の風土づくりが行われたか。	C	一定の目標を設定して実行をうながしたが、必ずしも達成できたと考えにくい。

平成19年度 市民環境部 改革マニフェスト 自己検証シート

	所管職員が佐渡市行政改革マニフェストの趣旨と内容を十分に理解し、目標の達成に向けて精力的に取り組んでいたか。	B	担当者の理解は充分図られたが、課内・部内としての取り組みが精力的に行われたとは言いがたい。
	目標達成のための行程管理や関係機関等との調整が適切に行われていたか。	C	必要に応じて調整を行ったが、予定より遅れている。
取組み後の対応	目標の達成に対する効果(アウトカム)の把握、または把握することの手立てをしたか。	C	効果調査に時間を要し、思いどおりの実行が図れていない場合がある。
	目標を達成していない項目については、具体的な改善策を計画し、または他の手段により対応したか。	C	現在、具体的な改善策を再検討させている。
	実績と今後の対応について市民に説明を行ったか。	C	12月議会への報告や当委員会へ報告する。
	取組みの過程と実績、課題点などについて部局内で話し合わせ、所管職員が状況を理解しているか。	C	理解している。
	実績に対する市民の質問や要望に対応する方法を確立したか。	C	検討させている。

3) 総評

今年度の取組みに対する部局長のコメント
初めての手法の導入であり、日常業務のなかでの評価や改善に対する取り組みは一定の経験を通して実るものとする。
<p>【良かった点】 行政改革の評価と改善策についての認識がめばえた。</p> <p>【悪かった点】 必要と考えているが体制や数値としての効果が年度途中のため明らかにならない。次のステップがふみ出せないことが多い。</p>